

ねじりはちまき

9月 長月 白露 秋分の月になりました。9月1日 二百十日です。8日白露、10日中秋の名月、19日敬老の日、23日秋分の日となっています。

旧暦8月15日の夜は月を愛でながら秋の収穫物を供え豊作を感謝する、十五夜(秋の名月)の祭りが行われます。現在の太陽暦では年毎に月見の日が変わりますが、月を基準としていた旧暦では十五の夜は満月の夜にあたります。また、秋の7月8月9月の真ん中にあたることから、この日を『中秋の名月』と呼ぶようになりました。その夜の月が最も美しいとされています。日本の秋は空気が澄み月が一番美しい季節であることから今でも月見の行事は各地で広く行われています。三方にのせた月見団子、里芋、果物などと秋の七草を供え灯明やろうそくを灯します。秋の七草とは撫子・葛・桔梗・萩・藤袴・尾花・  
おみなえし  
女郎花の七つです。

幸田常一

\*\*\*\*\*

<会社近況>

いつもお世話になっております。暑さもだいぶ和らいできました。

ただいま本宮市の修繕工事をお世話になっております。

<十五夜>

お月見は、十五夜にすすきを飾り、月見団子を供えます。無事に収穫できたことに感謝し、これから実るものに豊作を祈願します。すすきを飾ることは作物豊作、子孫繁栄を見守るとされる月の神様を呼ぶ『依り代』を表しているそうです。本来の依り代は稲穂であるらしいのですが、時期的に稲穂がない為、形状が似ているすすきを使用するようになったようです。月見に供えたすすきを玄関の軒先に飾ると1年間無病息災に繋がるのだとか…すすきの切り口が鋭いことから魔除けになると言われているようです。秋の夜長を涼んでみてはいかがでしょう。

\*\*\*\*\*

山旅遊人さんの寄稿はなんと北海道編！！今回は旅の全容をお届けする前に、少しだけ内容を教えていただきました。次回の投稿もお楽しみに！

\*\*\*\*\*

令和4年9月5日発行

9月に入ってもまだまだ暑い日が続きます

有限会社 幸田建設

ね。秋は運動会や、散歩、スポーツをするの

<発行責任者>幸田久美

に適した季節ですので、外で身体を動かすの

〒969-1204

も健康に良さそうです。皆さん、秋はどんな

本宮市糠沢八幡 1-1

時間を過ごされますでしょうか。

電話 0243-44-3816

(ほしの)

## 夢を見続ける男 NO101

### 次世代のために思うこと

本稿の101号を寄稿するに当たって、どんなことを書いたものかと考えてみた。そうしたら「自分は生き切れないけど、21世紀ってどんな世紀になるのかな」と世紀の節目を迎える頃考えていたことを思い出した。新世紀については、どちらかという期待をもって迎えようとしていたと思う。その21世紀も既に22年目を迎えている。この22年で我々が眼にしたものはなんであつたらうか。これまでの間眼にしたものは、自分の人生の歩みの中で、稀に見る大きな出来事で、それも相次いで起こってきている。先ずは、2011年3月の東日本大震災、そして東京電力の福島原子力発電所爆発事故であり、次は2020年1月から今日まで続いている新型コロナウイルス感染拡大・パンデミックである。そして今年2月24日に開始された大国ロシアによるウクライナ軍事侵攻である。これらに加え、20世紀からの世界共通の課題である地球温暖化が深刻化し、大規模自然災害が世界的に頻発している。

このような事象の中には次世代にまで影響を及ぼすものがあり、その点気にかかるものである。次世代に係わることについて以下述べてみたいと思う。最初に原発事故との関係である。原発事故の後、福島県は脱原発を宣言し、県内の原発全面廃止を打ち出した。水素爆発という最悪レベルの原発事故の被災県としては当然の結論であろう。それを受け、東電・国としても福島第一・第二発電所の廃炉を決めた。そして現在、40年以上はかかるという廃炉に向けた作業に入っている。しかし、その廃炉作業も核燃料のメルトダウンしたデブリの掌握と取り出しが思うように進まないでいる。ここで申し上げたいのは、その廃炉作業に半世紀に近い長期間を要すること、高放射性廃棄物の処理をどうするのか、である。通常でも、使用済み核燃料の管理処分が課題になっている。現在中間貯蔵されているものの最終処分が決まっていないのである。放射性物質は人工的に無害化できず、自然減衰に任せるしか方法はなく、地中深く埋設して保管し、半減期の永いものは無害化に10万年はかかるという。原発は使用済み燃料の後始末や廃炉に膨大な費用と時間がかかる代物だということをよくよく認識しておく必要がある。核分裂による発電方式は課題が多すぎる。後の世代に負の遺産を遺すようなものだ。安全性が確保されればいい、二酸化炭素を排出しなければいいということでは済まないものがあると言わざるを得ない。原発事故により非難を余儀なくされた方々は、故郷を追われ、家族が離散する、コミュニティが破壊され、故郷へ戻ろうにも帰宅困難区域では振興拠点以外の白地地区は除染の見通しもたっていない悲惨な状況にある（白地地区の内、帰還希望の所については2024年から除染開始するとの方針がようやく示された）。2011年のような原発事故は二度と繰り返してはならないし、原発のメリットだけに目を奪われてはいけないと思う。電力エネルギーについては、再生可能エネルギー即ち自然エネルギーにベクトルをもっと向け、研究投資をし、イノベーションを図るべきである。これは次に述べる地球温暖化にも関わることでもある。最後に原発についてもう一つ。使用済み燃料からは、核兵器にも転用可能なプルトニウムを取り出せるということ。貯まり続けるプルトニウムの取り扱いをどうするのか。また、原発は再稼働の動きになっているが、稼働して40年以上の高経年化している原発も多くなっていることも忘れてはならない。安全審査はクリアしても、懸念材料ではある。

次世代に関わるテーマをもう一つ。それは、世界共通の課題である地球温暖化の問題である。これについては、スウェーデンの一少女の行動が世界の若者そして国連事務総長をも動かした話を紹介したい。その一少女とは、ご存知の方もいるかも知れないが、グレタ・トゥンベリさん（以下、グレタさんという）のことである。グレタさんは、2018年、15歳の時、8月から毎週金曜日に学校を休んで（金曜ストライキ）、スウェーデンの国会議事堂前に座り込み、地球温暖化対策を訴え続けたのである。その行動に共鳴して座り込む人が増え、またそのことがSNSで世界に発信され、「未来のための金曜日」として世界的に共鳴の輪が広がっていった。そして、翌年の2019年9月、国連の「気候変動サミット」に合わせ、世界160ヶ国・400万人に上る若者が「地球温暖化の影響を受けるのは若者世代である」と抗議デモを行ったのである。

グレタさんもサミットに招かれて演説し、「温暖化解決のために具体的行動を取らないのであれば、結果とともに生きなければならない若い世代はあなた達を決して許さない」と強い言葉で各国首脳に訴えたのである。このように、地球温暖化の問題は「世代間の責任」に係るテーマである。後の世代に負の遺産を遺すことにしてはならない喫緊の課題といえる。ところで、世界的に地球温暖化対策の動きはどうなっているか。先の2019年のサミットでは、2015年の「パリ協定」—2020年以降の気候変動に関する国際的枠組みに基づき、2050年までに正味ゼロ・エミッションを達成するために、各国が貢献を強化するための具体的・現実的計画を決定するよう促されたのである。それを受けて、2050年に向けての動きが世界的に活発になり、日本では、2020年10月に菅首相の下で「2050年までの脱炭素宣言・カーボンニュートラル宣言」がなされ、これを受けて国内の自治体にも広がりを見せ、福島県でも、本宮市でも同様の宣言がなされた。この動きと連動して、2021年にはCOPとIPPCにも画期的に動きがあった。IPPC（国連気候変動に関する政府間パネル・195の国と地域の参加）の第6次報告書（第1作業部会＝気候変動・自然科学的根拠）で、「人間活動が地球温暖化に影響しているのは、疑う余地がない」と結論付けたのである。それまでの報告書では、「主な原因である可能性が高い（66%）」とか「可能性が極めて高い（95%以上）」としていたのが、人間活動が原因と断定するに至ったのである。ここでいう「人間活動」とは「温室効果ガス排出」を指す。また、COP（気候変動枠組条約締約国会議＝197の国と地域が参加）の第26回締約国会議（イギリス・グラスゴー）で、「2100年の世界平均の気温上昇を産業革命前の1.5℃以内に抑える」と宣言文に盛り込まれたのである。それまでは「2℃より十分低く保ち、できれば1.5℃に抑える」だったものが、「1.5℃以内に作る」と断定されたのである。因みに現在はどうかという、既に1.1℃上昇してしまっている状況にある。現在の進行速度では、2030年～2050年頃には1.5℃（悪影響リスクが大きくなる）に達すると言われていたが、その危機意識が各国に共有されたと言える。そのためには、2050年までに脱炭素を目指して具体的対策を講じることが求められることになる（先進国と途上国の間に温度差はあるが）。我々の世代は、経済成長の果実を享受してきたわけだが、このままだと後の世代に負の遺産を遺しかねない。そうならないよう、政治・政策的には勿論やるべきことをしっかり取り組んでもらうが、個人的にも、やれることをやらなければならないと思う。いわば、この30年位は正念場の時に差し掛かっているのである。小生としても、やれることをやろうと思い、十数年前になるが、太陽光発電のパネル（5KW）を設置したり、車をハイブリッド車にした。それから、現在自宅からのCO2排出量を減らすために「生活記録表」を備え、毎月電気使用量・ガソリン使用量などを意識し、記録することになっている。また、生ごみはゴミとして出さず、堆肥化するようになっている。今一人ひとりが地球温暖化を意識し、ささやかでもやれることから実行していくことが大切だと思う。

## 北海道山行2週間（その1 第一稿）

日本三百名山で北海道に残っている次の7山のうち、8月28日（日）から9月10日（土）の期間に、④のカムエクを主目標に丸印の4山を登った。今回はその概要を記し第一稿とする。整理する時間がなく写真の掲載は次回とする。

（百：日本百名山。◎：日本二百名山。○：日本三百名山）

- ① 雄阿寒岳（百 1371m、雌阿寒岳 1499m は既登）
- ② 石狩岳（◎1967m）
- ③ ニペソツ山（◎2013m）
- ④ カムイクウチカウシヤマ通称カムエク（◎1980m）
- ⑤ ペテガリ岳（◎1736m）
- ⑥ 神威岳（○1600m）
- ⑦ 夕張岳（◎1668m）

### ○概要

- ・28日（日）仙台港 19：40 発太平洋フェリー（B寝台）
- ・29日（月）苫小牧港 11：00 着、移動 夕張岳登山口車中泊
- ・30日（火）夕張岳登山（曇り）、移動 帯広市内の親戚宅に泊
- ・31日（水）前日から雨

お昼に帯広市南の中札内村にある道の駅「なかさつない」にてY（横浜市在住女性）さん、A（新潟県在住男性）さんと合流。自分もYさんAさんも古稀以上の人、自分が一番若い。二人は30日に新潟港からフェリーで31日小樽港4：30着。3人それぞれマイカーでカムエク登山のために集合。Yさんは4月末の笈ヶ岳に自分と一緒に登った人。Aさんとは初対面。

午後、カムエク登山口 10 km以上手前の「日高山岳センター」で最近の天候、降雨の状況、渡渉する札内川の水量等について聞く。

降雨のため登山口へ向かうゲートが17時から閉鎖されるとのこと。

### 1日（木）曇り

センターから10時にゲートが開放されるとの連絡あり、登山口の下見に行く。最終ゲートから6.4 km先の登山口まで歩き始めたら、途中で山からの水で広い水たまりができていて長靴などの準備不足で途中で下見を断念。帯広市内で渡渉の際使用する、3人をつなぐロープを購入する。道の駅車中泊。

### 2日（金）曇り

朝食後準備し出発。最終ゲートから自分とAさんは長靴で。セノ沢出合いで沢靴に履き替え準備していると、歩き慣れた感じの6人組が先行。何度かの渡

渉を繰り返し、夕方八ノ沢出合のテント場に着く。すでに 6 人組はテントを張り焚火をして盛り上がっていた。地元の山岳連盟の人達で、道を作り（通行の目印のピンクテープを張ったり危険個所の表示をしたり）来たとのこと。

### 3日（土）曇り、青空あり

5時過ぎ、岳連の人達が作業のため出発した後、テント出発。念願のカムエク山頂を往復するが時間を要してしまい、何十回もの沢の渡渉に時間がかかり明るいうちにテント場にたどり着けなかった。時々携帯の YAMAP で現在位置を確認しテント場に近づいていることは分かっていたが、翌日の 1:30 まで行動してもテント場には到達できなかった。水量が多く流れが速いところで渡渉ができなくなり行き止まりになってしまった。万事休すとし行動を止め、林の中でビバーク（※）する。

（※）しっかりしたテントを用いず露営すること（なかば外気にさらされるような状態で休息をとり、泊ること）を指す用語。（ウィキペディア）

### 4日（日）曇り、青空あり、次第に快晴

明るくなり周辺を探索したら、対岸の林の少し先・下流側に焚火の煙を発見し、テント場が近いことを知る。岳連の人達の焚火だ。対岸に渡渉地点を示す真新しいピンクのテープもあった。ビバーク地点まで戻り、急いで沢靴に履き替え準備をして渡渉し 3 人そろって 7 時前にテント場に着いた。岳連の人達が大変心配してくれていて、煮込みうどんをごちそうしてくれた。ありがたかった。岳連の人達はテントの撤収作業も手伝ってくれて、私達 3 人をこのまま置いておけないと思ったのか同行を申し出てくれて 8 時過ぎ登山口の七ノ沢に向けて出発。Y さんのザックも担いでくれた。渡渉時には Y さんを抱えて渡った。

往路の自分たち 3 人の所要時間の半分くらいで七ノ沢に着き、写真を撮ってくれたりデポした長靴を持ってくれたり。ゲートのかかり手前に置いていた車に乗せてもらい 2 時間の林道歩きをしないで済んだ。

岳連の役員の一に、先祖が猪苗代町出身の人 W さんがいた。W さんの車に乗せてもらった。車の乗り換えなどできちんと御礼をしないで別れてしまい心残りだった。

午後、中札内村内の日帰り温泉で入浴し、道の駅向かいのマックスバリュで買い物し、道の駅のテーブルに陣取り 3 人で会食。日本二百名山で最も難易度の高いと言われるカムエク登頂を祝って乾杯した。道の駅車中泊。

### 5日（月）快晴

午前、ゆっくりと朝食を楽しみ山談義。Y さんは北海道に 2 山、ペテガリ岳

と神威岳を残しておりAさんは神威岳のみを残しているとのこと。ペテガリ岳と神威岳は7、8月の大雨により林道が通行止めになっていて今季は登れない。来年7月下旬頃3人で共通の神威岳と一緒に登ることにした。それまで元気に過ごしましょうと約束しカムエク登山3人組を解散することにした。8/31から9/5まで6日間一緒に過ごした山友二人との別れは寂しかった。Aさんが別れ際にニコニコしながら自分に対し「あまり無理しないでね!」と言われた。

自分は翌日雄阿寒岳に登るため阿寒湖温泉を目指して出発する。今回の山行の目的を達成したYさんとAさんは台風が北上しないうちに早めに帰ると話していた。自分は鈍感だから、もっと早く二人を残して出発すべきだったかも知れない。

移動。夕方、阿寒湖温泉着。雄阿寒岳登山口を確認後、車でゆっくり阿寒湖畔のホテルやアイヌ民芸品の店の並ぶ通りを散策し、阿寒湖アイヌコタン(※)の一角にある「北国の味 ぼんや」でトウモロコシがたくさん入った味噌ラーメンを食べる。コンビニのすぐ隣にある自然公園財団の駐車場にて車中泊。霧雨

(※) アイヌの伝統文化を受け継ぐ、約120人のアイヌの人々が実際の生活を営んでいる。道内最大級のアイヌコタン(集落)(北海道公式観光サイト)

6日(火) 霧雨。

7時前、雄阿寒岳の滝口登山口で準備していたら若者(と思ったら東京北区在住、53歳の独身男性だった)がやって来て一緒に登っていいですかとのこと。OKする。霧から雨、樹林を抜けだしたら風が強まり山頂に10時半過ぎ着。阿寒湖は無論かつて登った雌阿寒岳(百1499m)などの眺望も全くなく、山頂で写真を撮っただけで下山する。13時前駐車場着。6時間の山行だった。体が下着まで濡れてしまったので阿寒湖温泉に入りたいと思った。前夜に「ぼんや」で聞いていたバスセンターの温泉に入ることにしたら、素泊まり4,000円となっていて、急遽泊まることにした。バスのドライバーさんなどが泊るところらしい。2.5m×5mくらいの湯船に一人、ゆっくりと温泉に浸かる。すぐ隣のセイコーマートの缶ビールで一人乾杯する。

夕食は前夜ラーメンを食べた「北国の味 ぼんや」に行った。貸し切りになっていたらしいが知らずに入ったら、前夜も来た客と分かって断られなかった。店主や従業員の夕食と仲間たちのために貸し切りをしていたとのこと。自分を常連扱いしてくれた。豚丼を食べながら根室の地酒「北の勝」をいただく。店主は阿寒アイヌ民族文化保存会のMさんで、自分は神楽の小鼓をやっていると話したら飲みながらいろいろと話をしてくれた。アイヌ舞踊の公演で福島県に

も来たことがあるとのこと。帰りに、坂になっているアイヌコタンの上方面にある阿寒湖アイヌシアターイコロの公演が21時からだったので観た(観覧料2,200円)。観客は座席数332席の半分くらいの入りで若い人や幼子連れのカップルなど女性が8割くらいだった。

雨に加え風も出てきた。台風11号の影響か。

## 7日(水) 快晴

台風は北海道の西で温帯低気圧に変わったとのこと。遠く離れた阿寒湖温泉でも前日と打って変わって快晴。

朝風呂の温泉に入り隣のコンビニの弁当でゆっくり朝食をとる。遊覧船の発着場の阿寒湖畔から見た雄阿寒岳は見事だ。ようやく雄阿寒岳登山の達成感を感じる。きょうは石狩岳登山口までの移動だ。

足寄国道(R241)沿いに、トウモロコシやソフトクリームの赤や黄色の旗がたなびくところがあり、トウモロコシを食べても良いなと思い立ち寄った。女主人が「お客さん」でなく「おじさん福島から来たの?」と話しかけてきた。いきなりという感じだった。車のナンバーを見てのすぐの反応だった。やり取りをしたら祖母とひいばあさんが福島県出身で自分も昨年福島に行ったとのこと。確かめてみると白河の西郷村らしかった。ソフトクリームと黄色のトウモロコシを買った。まったくの偶然で、宣伝してあげると言って名刺をもらった。(※) トウモロコシを食べながら偶然とはいえ出会いの不思議さを思った。

(※) みどりちゃんのOMISE 足寄町螺湾 新妻さん

足寄町からはナビの案内で舗装路の山道を通り上士幌町に寄らずに糠平国道(R273)に出た。前日買ったパンしかなかったのでコンビニに寄りたかったが、糠平温泉にもコンビニはなかった。

石狩岳登山口への林道の進入路を探したが見つからなかった。2年前の夏には分かったが忘れてしまった。R273沿いにポツンと山小屋風の建物があり、よく見ると三股山荘「営業中」と張り出されていた。

薄暗い店の中にはお客が二人、若い女性と中年の女性の従業員(オーナー?)がいた。レストランとなっているが今は軽食のみとのこと。おいしいコーヒーを頂いて進入路のことを聞いたら親切に教えてくれた。コンビニの所在を聞いたら北の層雲峡と南の上士幌まで行かないと無く、いずれも40kmの距離があるとのこと。コンビニはあきらめ、翌日の石狩岳登山は賞味期限の切れたパンで我慢することにした。

14kmの林道を1時間くらいかかって15時ごろ登山口に着く。車が1台あった。天気が良く、雄阿寒岳で濡れた靴や衣類を干す。サトウのご飯とカレーを湯煎し、缶詰で夕食とする。アルコールが欲しかったが往復80kmのコンビニに行く



気はしなかった。

8日（木）晴れ。モルゲンロート・朝焼けが素晴らしかった。

前夜のうちに1台、朝方4台の車がやってきた。5時過ぎ出発。10分くらいのところで幅2~5mの沢を渡る。カムエクの渡渉を思えばらくちんだ。1時間弱ぐらいのところでシュナイダーコースの取り付き点に着く。ここから急登の連続、かくれんぼ岩から上では痩せた岩場の急登が続く。木の根や枝をつかんで、時には四つん這いになってよじ登る。9時過ぎ音更山（おとふけやま 1932m）とシュナイダーコースの分岐に出る。十勝連峰や大雪山系の景観が素晴らしい。10時過ぎ、標識のある石狩岳山頂（1966m）、その先の最高点（1967m）での360度の眺望を楽しむ。南には天を突く鋭鋒のニペソツ山（2013m）が登高意欲をかきたてる。

大雪山系ではかつて苦勞して登ったトムラウシ山（百 2141m）が黒く魔の山のように見える。若者が二人登って来て話す。周りの山を同定し教えてくれた。自分がかつて登った山々だ。

復路も同じシュナイダーコースを下山する。15時過ぎ登山口着。10時間の山行を無事終える。足がパンパン。余裕があればニペソツ山に登ることも考えたが、山頂での若者の話で石狩岳はニペソツの半分だと言われたので今回はニペソツ山はやらず来年の7月、日照の長い時期にチャレンジすることにする。10日の仙台港行きのフェリーを予約していたが、1日早く帰ることにする。

コンビニのある上士幌町まで下り買い物をして、士幌町の道の駅「ピア21しほろ」で車中泊。夕焼けがきれいだった。

9日（金）快晴。

士幌町のコンビニで許可を得て裏手に車を停めて、弁当を食べ山の記録を整理するが根気が続かない。お昼過ぎ苫小牧港に向けて出発。

道東道音更帯広IC~道央道~日高道沼ノ端西IC経由苫小牧太平洋フェリーターミナルに16時頃着く。

19時発「木曾」に乗り、夜、朝と2回の展望風呂を楽しみ、10日朝の朝食バイキング1100円はお得感たっぷりの栄養補給だった。

10日（土）10時仙台港着。

宮城野区高砂に住む娘と小学生の二人の女孫とお昼を食べて仙台を後にする。

自宅を出てから帰宅するまでの2週間の山旅となった。難易度の高い念願のカムエク登頂を何とか果たし、夕張岳、雄阿寒岳、石狩岳の計4つの山に登る

ことができた。日本三百名山残り24山。少しずつ登っていきたいが古稀を越えた自分に与えられた年限はそんなに多くはない。加齢による肉体の衰えを再確認した山行でもあった。

令和4年9月 NO110 アンチ・エイジング 山旅遊人